

## 161. いまさらながら「トイレ」雑感？

技術戦略部調査役（土木・建築） 高橋 光明

日本の公衆トイレを含めトイレの状況は、衛生面・機能面・規模・構造・設置場所など多様に渡り、その水準の高さには定評があるようです。

変遷を少し見れば、和式から洋式混合へ。室内の仕上げも明るい陶器製のタイルやシート張、屋外などは清掃のしやすさも考慮された磁器質のモノなど、バリエーションもあります（もっとも平安時代の貴族の廁は「畳敷き」というのもあったそうな…）。

さらに、身体障害者用（ユニバーサルデザイン）やベビーベッドなどを付けた多機能のモノ。設置場所も、公園・街路の一角、駅などの公共施設、ちょっと意味合いは異なりますが、狭小な場所では新幹線内など、さらに景観への配慮など、求められる条件や制約から様々な工夫と知恵が凝縮されています。

最近では、東京オリンピック開催に向け、改めてイメージアップする公衆トイレの見直しを進めている自治体もあるようです。

これらは、下水道に直結していないモノもあるかもしれませんが、それでも下水道の普及に伴い、衛生面の確保から、さらに生活の質を向上させる施設となっています。

さて、最近、国土交通省では、工事現場に「快適トイレ」の設置といった取組みを始め、事例集などもまとめだしているようです。

そもそもは、「建設現場におけるワーク・ライフ・バランスの推進」として、男女ともに働きやすい環境にするよう、「快適トイレ（女性も活用しやすいトイレ）」の標準仕様を決め、現場での導入を始めるとともに、仕様を満たす事例を集め（30社・68件）、一層の建設現場の環境改善に結びつけています。

記載している仕様も、基本機能として洋式・水洗・臭い逆流防止・施錠等、これに鏡付洗面台やサニタリーボックス、窓や室内寸法の確保といったモノを加えていき、タイプもハウス型・車載型・ボックス型と、いろいろ感心するほどです。

これらは、男女ともに働きやすい環境を創るよう女性技術者に対してアンケートを行い決めたようです。当然のことですが、公共事業として過度なことにはならないよう必要上の制限はつけています。

何よりも、政府が男女共同参画で進める「ワーク・ライフ・バランスの推進」というテーマにおける建設現場の取組において、3本の柱の一つに工事現場のトイレを挙げていることであり、単に衛生的な施設ということを超えて、働く環境の重要性を示す尺度にもなっていることです。

加えて、建設現場の仮設トイレが「快適トイレ」に変わることで、災害時に避難所等に持ち込まれる仮設トイレも変わるといった副次的効果も期待している、とのこと。今後は、全国の自治体への広まりを通じて、建設現場の環境改善につながるよう期待しているようです。

まだまだ、取組が始まったようですが、今後の全国的な展開を期待しています。